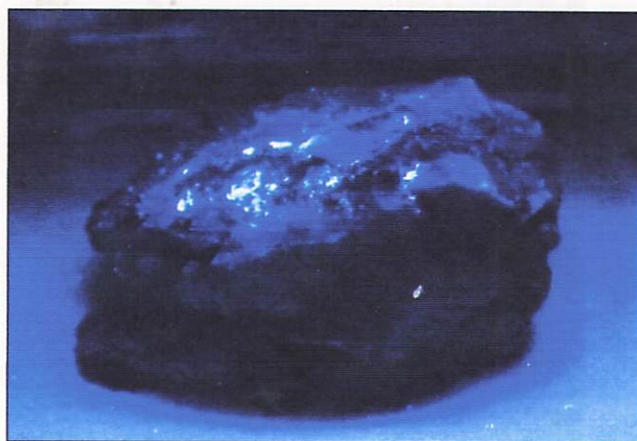


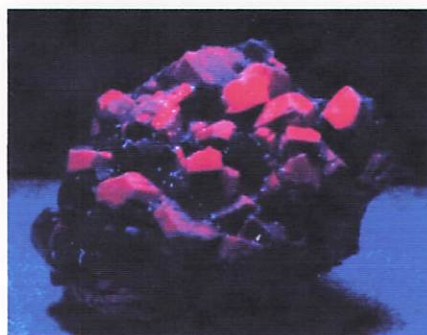
大野で見られる

“光る石”

—石のなかに星の世界が—

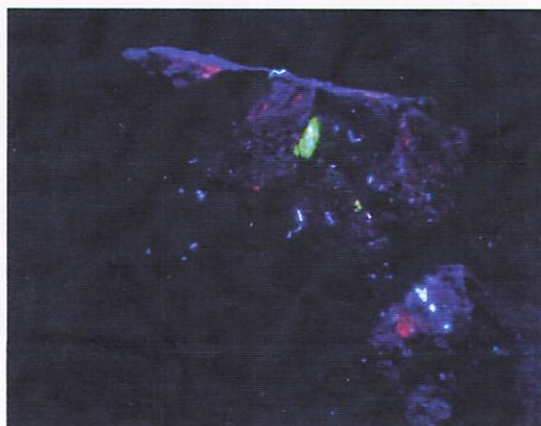
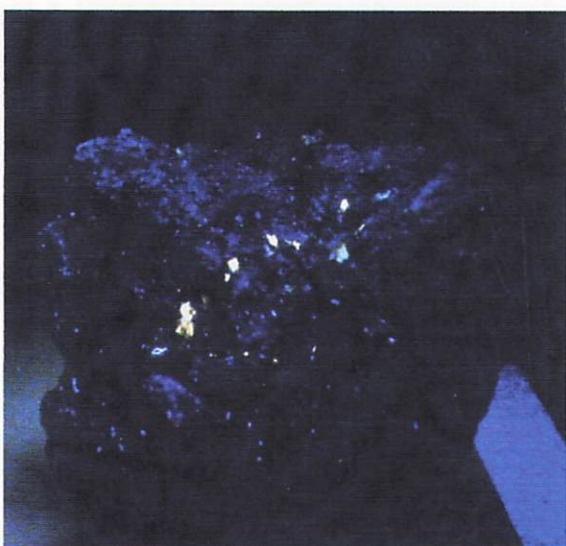
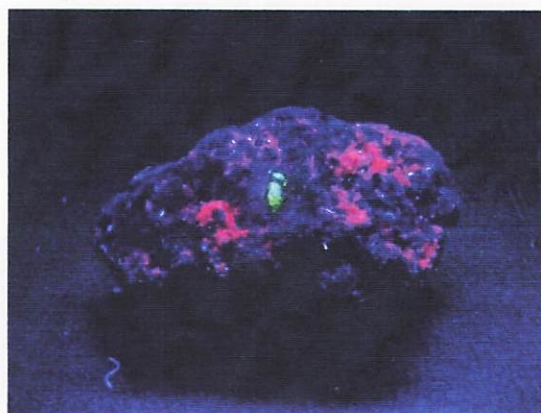


注：岩石・鉱物類は、例えばチョウチンアンコウやホタルイカなどの生物のように自ら発光するものはない。光るといっても外部からエネルギーを与えた場合のみで、ここに掲載した岩石類は短波長の紫外線を当てて光らせたものである。



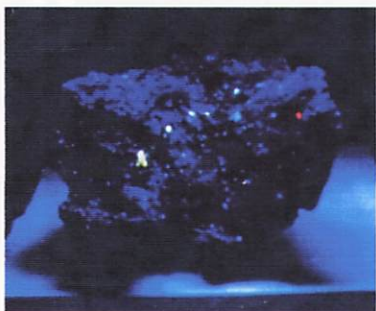
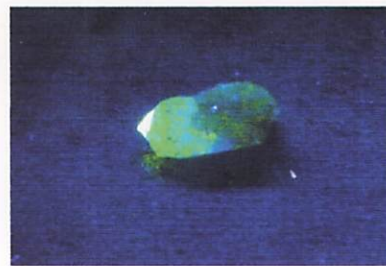
*カリ長石と水晶がひとかたまりになった典型的なpegmatite鉱石だが、光るのはカリ長石だけで水晶はまったく反応を示さない。

*花崗岩の中に見られる緑色に光る鉱物。方解石のほかウランなどの放射性物質の可能性もある。ピンク色はカリ長石。(右上下の写真)



*大野鉱山付近で採取した低品位の銅鉱石に紫外線を当ててみたもの。青白く光る点はタングステン鉱。黄色の部分は方解石と思われる。

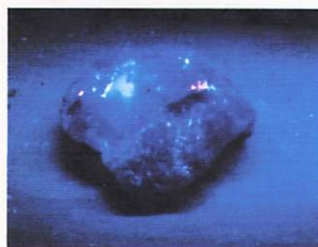
*実際に光るのは先端の部分だけだが、強烈な光のために水晶全体が光っているように見える。10数個固まっていた小さな水晶群のなかでこの一個だけが写真のような光を発した。



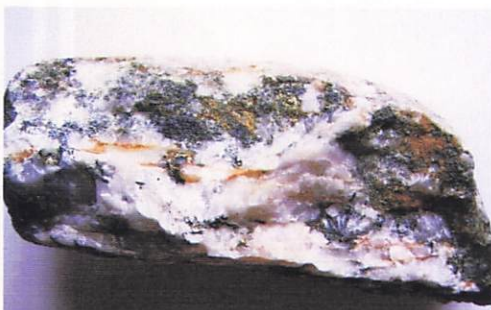
*赤、緑、黄色と光っているが、これらもなんらかの鉱物を含んだ方解石と思われる。方解石は一般的にはピンクから赤色に光るとされているが、含まれる鉱物によって、色を変える。鉱物の特定は専門家でも容易に判断できない場合が多い。



*細粒の白雲母に覆われた石英。母岩である花崗岩に熱水が貫入したためにできたもの。この中に左側の写真のように方解石が混じっており、特色のある光を放つ。



*左右とも同じ石英。通常石英は紫外線を当てても光らないが、この石英は珍しくタングステンや方解石などを含んでいるため、写真のように綺麗な光を発している。



*黄銅鉱や閃亜鉛鉱などを含む鉱石だが、タングステンの部分だけが鮮やかに光っている。



表紙写真説明：可視光の元ではこのように黒く見えるが、これは大野鉾山で採掘の対象となった鉄マンガン重石で、鉄とマンガン、タングステン鉾（重石）からなる鉾石。青白く光っているのは、この中のタングステンの部分。

作成「大野の自然を愛する会」

森川範吾 今岡幹夫 岩波和雄 杉田敏男 田中雄司 土田捷紀 畠山忠雄 文理一男